

# ☆masaki

学校教育目標 「自らの良さを認め 共に伸びる生徒の育成」

校 訓 「真面目にします 仲よく協力します よい言葉を使います」

いよいよ令和6年が始まりました。今年は元日から、「令和6年能登半島地震」が発生し、たくさんの尊い命が失われました。今も度重なる余震に耐え、寒さに震え、水や食料が届かずに苦しんでいる多くの人たちがいます。私たちは、今生きていることへの感謝を忘れず、自分たちにできる何かを探して生きていきたいですね。また、いつ私たちの住む地域でも同じような大地震に襲われるか分かりません。日頃から、「ここで地震が起こったらどう逃げよう?」「津波が来たらどこに避難しよう?」「備蓄品はあるか?」など、地震や津波への備えをしておきましょう。2学期終業式での校長先生の式辞であったように、「時は命なり」です。3学期も自分の命と向き合い、今生かされていることに感謝しながら、頑張っていきましょう。

## 3学期始業式式辞

あけましておめでとうございます。いよいよ2024年、新しい年がスタートしました。お正月はどのように過ごしましたか。家の手伝いや読書、勉強に取り組めましたか。新年を迎え、目標や目当てを持ち、「やるぞ」という気持ちを新たにすることができたでしょうか。

2024年は、十干(じっかん)が「甲(きのえ)」、干支(えと)は「辰(たつ)」で、「甲(きのえ)辰(たつ)」の年です。「十干(じっかん)」とは、古代中国の数の数え方です。右手の親指から、指を折りながら左手の小指まで、甲(こう)、乙(おつ)、丙(へい)、丁(てい)・戊(ぼ)・己(き)・庚(こう)・辛(しん)・壬(じん)・癸(き)と数えていました。この「十干(じっかん)」と「十二支(じゅうにし)」の組み合わせが60通りあり、「甲子(きのえね)」から始まって「癸(みずのと)亥(い)」で終わります。この60で物事が一巡するという中国の考え方は、私たちの生活や習慣の中に残っており、その代表的なものが還暦です。生まれてから60年で、生まれた年の干支を迎え、一つの人生を生ききったとされます。

2024年の甲(きのえ)辰(たつ)の年は、十干(じっかん)十二支(じゅうにし)で41番目にあたる年です。その文字の意味から「始まりの年で芽吹き」の年であり「活気に溢れ力がみなぎる年」とされています。また、今まで頑張ってきた人には、その成果が花開いたり、新しい才能が発見されたりする年だともいわれています。

3年生の皆さんは、進路を決定する大切な年ですね。将来自分は何をしたいのかよく考えながら最終的な進路決定をしてください。そして、迷うことなく突き進んでください。皆さんの努力が花開く年が、今年です。

2年生の皆さんは、4月から最高学年です。松前中学校を背負って立つ存在にならなくてはなりません。1月20日には「少年の日記念集会」を行います。それを良い機会に、目標を見失いがちなこの時期に、将来を見つめ、夢に向かって頑張る気持ちを育ててほしいと思います。

1年生の皆さんは、運動会や文化祭などを通して中学生としての自覚が少しずつ生まれてきたと思います。四月には上級生になります。勉強や部活動など、今以上に集中して、うまく2年生につなげてください。そして、自分のことだけでなく、周りの人を気遣える、優しさや余裕を身に付けてほしいと思います。

2学期の終業式では、重松民樹先生が挨拶の大切さについてお話しをしてくれましたね。覚えていますか?挨拶は相手に伝わらなければ意味がありません。あなたの挨拶はどうでしょうか。相手に伝わっていますか?3学期も、挨拶の音が響き渡る松前中学校であってほしいと思います。

この3学期が皆さんにとって充実した素晴らしい学期になるように、そして、たくさんの幸せが訪れることを祈念して始業式の式辞といたします。

令和6年1月9日

松前中学校長 福島 泰正

年末に昔の資料を整理していると、ずいぶん前の「人権・同和教育研究大会」の資料の中に、教え子の人権作文を発見しました。当時勤めていた中学校で女子で初めて運動会のブロック長を務め、300人以上の集団を教師顔負けのリーダーシップで見事にまとめ、優勝に導いた彼女。そんな彼女の強い心の裏側にある思いを知り、改めてじんとくるものがありました。皆さんにもぜひ読んでもらい、考えてもらいたいと思い、全文紹介させていただきます。

母さんへ。

私が9歳になってすぐ、あなたがクモ膜下出血で倒れて、今年で9年です。18歳の私は、ちょうど人生の半分を障がい者の母さんと過ごしてきました。「半分」という節目のせいかな？最近私の中で変わったことがあります。変わるというか。謝るといった方が正しいことがあります。

たしか、私が小学校の頃でした。病院から外泊許可をもらった母さんは3か月に1度くらい家に帰ってきていましたね。でも、そのころの私にとって、それは必ずしも喜ばしいことではありませんでした。私は左半身の全く動かない母さんと何を話したらいいかすらわからなかったのです。車いすなんかギリギリ通るくらいのこの家で、何を母さんにしてあげたらいいかも思いつきませんでした。おむつカバーと運動不足で膨れてしまった腹まわり。寝起きみたいな髪型に、手術でいびつになってしまった頭の形。全てが怖かったです。私はあなたを軽蔑の目で見続けていました。

それが行動に表れたのは、ほんの些細なことでした。うちに一本だけ赤い柄の付いたスプーンがあるでしょ？私はずっと、そのスプーンが使いえなかったの。その理由は本当に情けないけど、『母さんがこのスプーンを使った』からだった。普段の生活でも私は赤い柄のスプーンを避け続けました。「使いたくない、嫌だ、汚い」って思い続けてた。心も体も受け付けなかった。

さっき書いた「変わったこと」っていうのはそのスプーンのこと。最近使ってます。赤い柄のスプーンを。本当に今までごめんね。何かきっかけがあったワケじゃないけど、何度も母さんの入所している障がい者施設に顔出しているうちに分かってきた。言葉で言い表しにくいけど、「特別扱いしすぎない」ことが大事だって分かってきたよ。そのことが分かってからは、母さんとの話題もすぐ浮かぶようになったよ。施設に入っている他の障がい者の人とも友達になれたよ。「障がい者って呼ばれる人は、何もそこまで特別じゃない」ってこともやっと理解できた。歩けない、上手にしゃべれない、そんな人でもパソコン使うし、テレビで巨人戦観るし、好きな歌手は浜崎あゆみなんよね…。

ごめんね母さん。私が8年間、誰にも話さず続けてきた差別は、障がい者のあなたへのものだった。本当にごめんなさい。今考えれば、私は赤い柄のスプーンを避け続けていた間も、えらそうに「人権作文」とか書いていたはず。実の親でさえ軽蔑の目で見ていたのに…。障がい者を特別扱いしていたのは私だけかな？でも家族の私でさえ飲み込むのに時間がかかった。「共生できる社会」を作るには時間がかかるだろうね。でも不可能じゃないと思うよ。

何はともあれ本当に悪かったと思っています。でも、これからあなたが私の母であることに胸張って生きていくよ。親孝行はこれから……。